

三菱UFJフィナンシャル・グループ

平成21年度第3四半期決算ハイライト

平成22年2月3日

● 損益サマリー	2
● B/Sサマリー	3
● 貸出金・預金	4
● 貸出資産の状況	5
● 保有有価証券の状況	6
● 保有証券化商品等の状況	7

＜本資料における計数の定義＞

連結 : 三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
2行合算 : 三菱東京UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算

● 業務純益

- 資金利益は法人貸出収益、市場関連収益が増加したことに加え、アコム連結化により大幅な増加
- 営業費は統合効果の発現に加え、グループ横断的なコストマネジメントの徹底により減少
- 以上の結果、実質業務純益は大幅な増加
アコム連結化を除いても+930億円の増益確保

● 与信関係費用総額

- 海外子会社での増加に加え、アコム連結化により増加。2行合算では略前年同期並み

● 株式等関係損益

- 株式等償却負担の減少を主因に大幅な改善

● その他の臨時損益

- 退職給付費用の増加を主因に減少

<連結P/L>

(単位:億円)

	20年3Q	21年3Q	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	24,928	26,898	1,969
2 資金利益	14,101	16,511	2,410
3 信託報酬+役員取引等利益	8,158	7,934	▲223
4 特定取引利益+その他業務利益	2,669	2,452	▲216
5 うち国債等債券関係損益	796	630	▲165
6 営業費	15,729	15,640	▲89
7 実質業務純益	9,198	11,258	2,059
8 与信関係費用*1	▲4,344	▲6,277	▲1,933
9 株式等関係損益	▲3,263	▲200	3,062
10 その他の臨時損益	▲452	▲1,219	▲767
11 経常利益	1,139	3,560	2,421
12 特別損益	▲32	89	122
13 法人税等+法人税等調整額	903	986	82
14 四半期純利益	▲420	2,170	2,591
15 与信関係費用総額*2	▲4,335	▲6,277	▲1,942
16 うち2行合算	▲2,916	▲3,137	▲220

*1 与信関係費用=与信関係費用(信託勘定)+一般貸倒引当金繰入額
+与信関係費用(臨時損益内) (▲は費用)

*2 与信関係費用総額=与信関係費用+偶発損失引当金戻入益(与信関連) (▲は費用)

<ご参考>

(単位:円)

17 1株当たり利益	▲4.36	17.47	21.84
18 連結ROE *3	▲0.98%	3.63%	4.62%

*3

(四半期純利益×4/3)-非転換型優先株式年間配当相当額

{(期首連結株主資本合計-期首発行済非転換型優先株式数×払込金額+期首為替換算調整勘定)

+ (第3四半期末連結株主資本合計-第3四半期末発行済非転換型優先株式数×払込金額

+第3四半期末為替換算調整勘定)}÷2

×100

●貸出金

- 国内貸出はほぼ横這い、海外貸出が減少のほか、泉州銀行非連結化を主因に21年9月末比減少

●有価証券

- 国債、外国債券の減少により21年9月末比大幅な減少

●預金

- 個人預金は大幅な増加の一方、海外店預金の減少に加え、泉州銀行非連結化により21年9月末比減少

●開示債権

- 開示債権の増加により、開示債権比率は21年9月末比微増も、低水準を維持

●その他有価証券評価損益

- 証券化商品等その他の有価証券を中心に21年9月末比若干の改善

<連結B/S>

(単位: 億円)

	21年3月末	21年9月末	21年12月末
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	922,566 [920,568]	882,072 [880,320]	855,593 [853,925]
2 うち国内法人貸出*1	502,392	481,131	480,811
3 うち住宅ローン*1	173,642	173,015	173,264
4 うち海外貸出*2	194,885	175,009	168,712
5 有価証券(銀行勘定)	483,141	573,843	541,555
6 預金	1,201,495	1,220,437	1,191,247
7 うち個人預金(国内店)	628,816	628,444	637,373
8 国内預貸金利回り差 (2行合算)	(20年下期) 1.44%	(21年上期) 1.34%	(21年3Q) 1.33%
9 金融再生法開示債権*1	11,899	12,459	13,390
10 開示債権比率*1	1.24%	1.38%	1.48%
11 その他有価証券評価損益	▲9,177	4,148	5,287

*1 2行合算+信託勘定

*2 海外支店+ユニオンバンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・預金

【連結】



●連結貸出金残高は85.5兆円
(21/9比▲2.6兆円)

<21/9比増減の主要因>

- 国内法人貸出 ▲0.0兆円
- 海外貸出*1 ▲0.6兆円
- 泉州銀行非連結化 ▲1.7兆円

*1 海外支店+ユニオンバンクカル・コーポレーション+BTMU(中国)

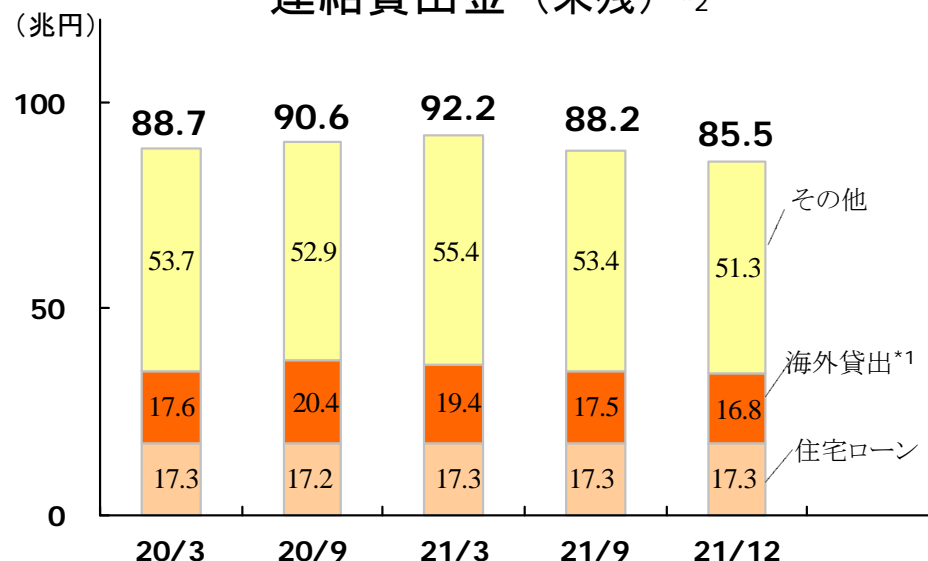
*2 銀行勘定+信託勘定

●連結預金残高119.1兆円
(21/9比▲2.9兆円)

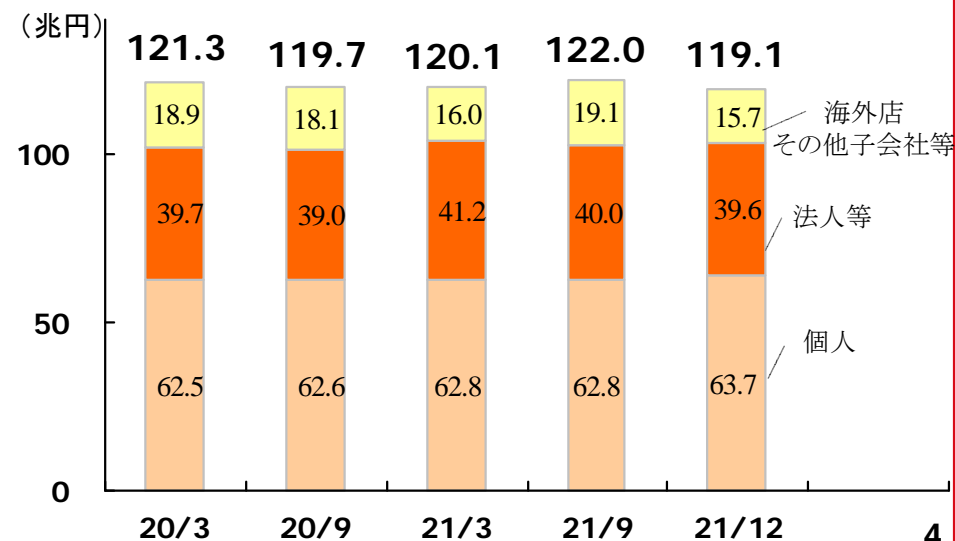
<21/9比増減の主要因>

- 個人預金 +0.8兆円
- 法人等預金 ▲0.3兆円
- 海外店預金 ▲1.0兆円
- 泉州銀行非連結化 ▲1.9兆円

連結貸出金（末残）*2



連結預金（末残）



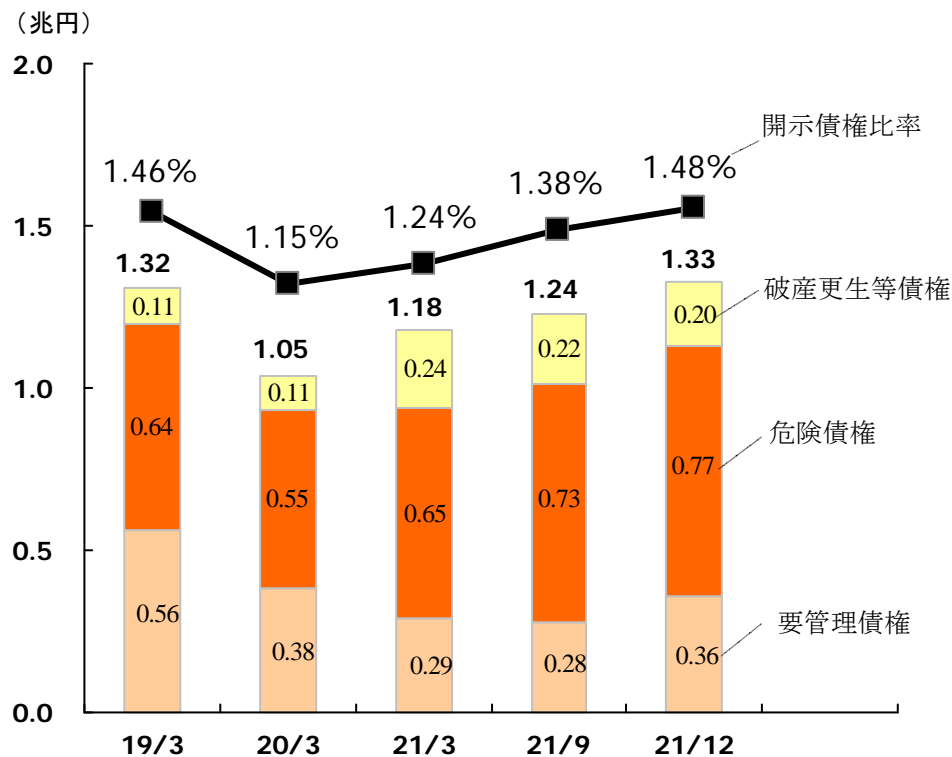
貸出資産の状況

【連結・2行合算】

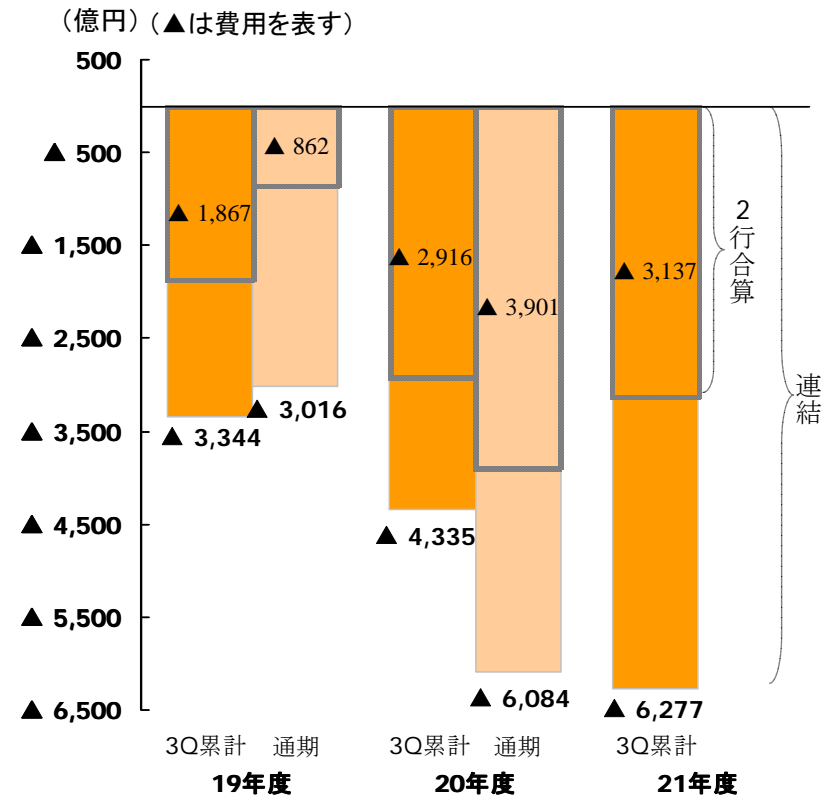


- 危険債権及び要管理債権の増加により、開示債権比率は21/9末比0.10ポイント上昇の1.48%
- 与信関係費用総額は2行合算で3,137億円、連結では6,277億円の費用計上

金融再生法開示債権残高(2行合算)



連結与信関係費用総額



保有有価証券の状況

【連結】



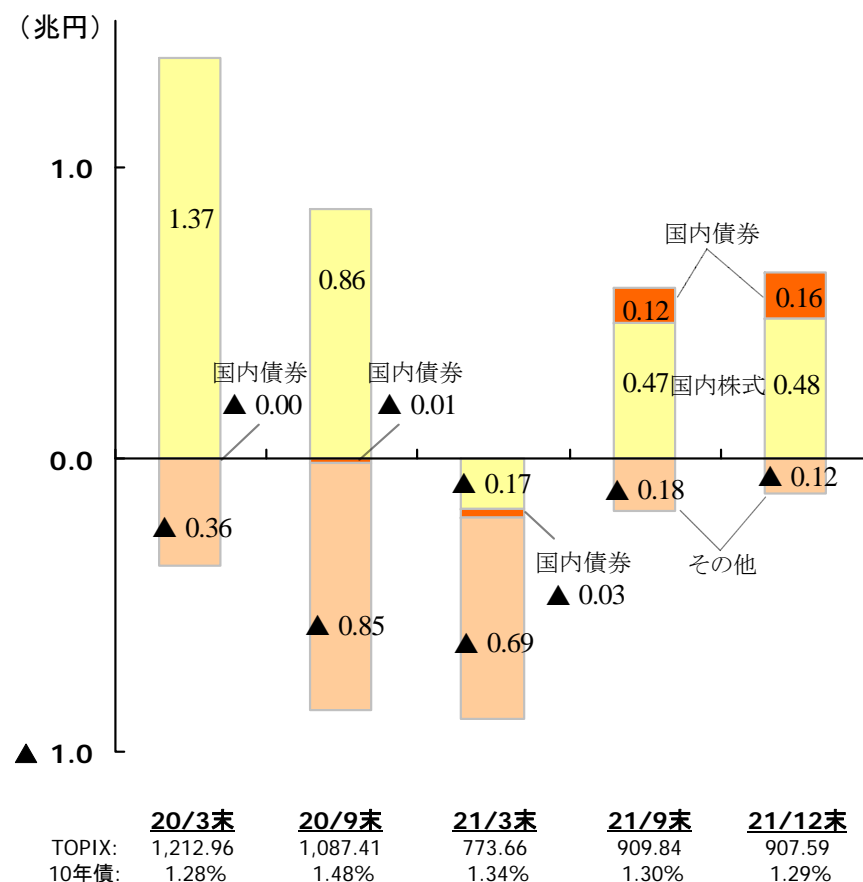
- 国内債券及びその他の有価証券の評価益改善により、その他有価証券全体の評価損益は21/9末比1,138億円増加

その他有価証券(時価あり)の内訳

(億円)

	21年12月末 残高	評価損益	
			21/9末比増減
合計	475,071	5,287	1,138
国内株式	41,846	4,890	122
国内債券	314,731	1,678	435
その他	118,493	▲1,281	580
外国株式	2,799	705	68
外国債券	96,065	168	▲443
その他	19,628	▲2,154	955

その他有価証券評価損益の推移



● 証券化関連商品等の残高は約1.92兆円(21/9末比▲620億円)

残高は減損後、評価損控除前。10億円刻みで表示(億円単位で四捨五入)、管理ベース

- 証券化商品等の残高は、格下げ・価格下落リスクのある銘柄の売却および償還により、1.92兆円に減少(21/9末▲620億円)
- 評価損益は▲1,490億円と、21/9末比570億円改善
- 第3四半期(平成21年4月～12月)の損益(P/L)への影響額は、売却損等による▲140億円

残高及び評価損益

	(億円)	残高		評価損益		内、満期保有目的の債券*	
			21/9末比		21/9末比	残高	評価損益
1	RMBS	1,020	▲40	▲20	30	0	0
2	うちサブプライム	320	▲20	20	20	0	0
3	CMBS	240	▲10	▲20	0	0	0
4	CLO	15,660	0	▲1,430	440	12,430	▲1,160
5	その他(カード等)	2,200	▲530	▲20	90	280	▲10
6	CDO	90	▲50	▲10	20	0	0
7	SIV	0	0	0	0	0	0
8	合計	19,210	▲620	▲1,490	570	12,710	▲1,170

* 実務対応報告第26号「債券の保有目的区分の変更に関する当面の取扱い」の公表に伴い、平成21年1月末以降に保有証券化商品の一部を「その他有価証券」から「満期保有目的の債券」に区分変更。なお、上記満期保有目的の債券の残高・評価損益は、区分変更前の簿価を基準としています。

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし前提(仮定)は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。

そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。